



公立大学法人島根県立大学広報誌 - オロリン

RORIN



島根県立大学
The University of Shimane

Vol.
08
2017.12

公立大学法人島根県立大学広報誌

RORIN

2017年12月1日発行

編集・発行 / 島根県立大学 企画調整室 〒697-0016 島根県浜田市野原町2433-2 TEL.0855-24-2201 FAX.0855-24-2208 <http://www.u-shimane.ac.jp/>



P07 P09 | キャンパス紹介 | 来春 出雲・松江に新学部 誕生 | P11-12 | 学生活動紹介「doing」 | 学外へ 躍動する県大生!

P14 | プレゼント | 出雲キャンパス共同開発「えごま商品」

P01-04 | 特集 | 学長×学生 3キャンパス座談会

2018年4月 人間文化学部 (松江) 看護栄養学部 (出雲) 新設

島根県立大学は、地域のニーズに応え、しまねの将来を担う人材を育てていくため、学部・学科の再編を行います。

人間文化学部 (4年制) 保育教育学科 / 地域文化学科

[松江キャンパス]



次の資格・免許が取得可能です。

保育教育学科

- 保育士資格
- 幼稚園教諭一種免許状
- 小学校教諭一種免許状
- 特別支援学校教諭一種免許状
- 司書教諭資格

地域文化学科

- 中学校教諭一種免許状 (国語・英語)
- 高等学校教諭一種免許状 (国語・英語)
- 司書・司書教諭資格

看護栄養学部 (4年制) 看護学科 / 健康栄養学科

[出雲キャンパス]



次の資格・免許が取得可能です。

健康栄養学科

- 栄養士免許
- 管理栄養士 (国家試験受験資格)
- 栄養教諭一種免許状
- 食品衛生管理者 (任用資格)
- 食品衛生監視員 (任用資格)

島根県立大学の
取り組みや最新情報は、
ホームページでも
配信しています。
ぜひご覧ください。



島根県立大学
マスコットキャラクター オロリン

LINE 入試広報LINE
始めました!

島根県立大学 検索

<http://www.u-shimane.ac.jp/>

地域に評価、信頼される大学に 学部・学科再編で人材育成強化



島根県立大学は2018年4月、松江、出雲両キャンパスの学部・学科再編により、浜田キャンパスを含めた3キャンパスすべてに4年制学部が設置されるなど、多分野の学部学科を擁する「総合大学」としての体制を整えます。地域ニーズに応え、島根の将来を担う人材育成の拠点として今後、どのような大学像を目指していくのか。今春、就任した清原正義学長と、浜田、出雲、松江3キャンパスの現役学生3人に、大学の未来像とそれぞれの将来について語り合ってもらいました。

地域に根付く県立大の「学び」

— 就任から約9カ月、各キャンパスの雰囲気、学生の印象などを、学長の立場からまずお聞かせください。

清原学長 これまで兵庫県立大学にいましたが、島根県出身者として島根県立大学には親近感を持っていました。各キャンパスは所在地が離れ、歴史や文化などカラーも違いますが、3キャンパスを合わせてこれが「島根県立大学」と、内外にはつきり分かるような統一したイメージをつくらせていきたいです。学長に就任以降、学生たちと接してみて、素直で真面目な良い学生だなと感じています。

島根県立大学は公立大学なので、地域貢献というミッション(使命)があります。どうしても地域に評価され、信頼され、開かれた大学になつていくか考えていきたいです。

— 学生の皆さんは、どのような学び

に力を入れていますか。

津田さん 私は現在、浜田キャンパスの総合政策学部で「しまね地域マイスター」への認定を目指して勉強しています。愛媛県から島根県立大学へ進学したのは他県で学ぶことによって故郷の良さや弱みを見つけるためだったので、島根県のことをより知ることができるこの大学独自の制度を活用しようと思いました。

「しまね地域マイスター」のカリキュラムやボランティア活動などで他キャンパスの学生と交流する機会がありますが、とても刺激になっています。出雲キャンパスの看護学部の学生との交流では、学習の内容や深度について違いを知ることができ、自分の学びへも良い影響を与えてもらいました。

清原学長 本学独自の「しまね地域マイスター認定制度」は、「地(知)の

拠点整備事業」(COC事業)を活用して創設したプログラムです。島根県の自然や風土、歴史などに理解を深めて地域を活性化していくってほしいという狙いがあります。今後は、こういったプログラムを多彩に用意して、津田さんのように地域課題へ積極的に取り組む学生が育っていくよう支援していきます。

津森さん 私は松江キャンパスの総合文化学科英語文化系で学んでいます。県立大学の特色だと思うのが、松江市ゆかりの作家・小泉八雲について学べるところです。松江市出身ですが、近所の寺社が「怪談」に登場するということを授業で知り、長年住んでいる街について新たな発見をすることができました。

もともと、観光資源を生かしたまちづくりに興味があり島根県立大学への進学を決めたので、観光系の授業にも積極的に取り組んでいます。「文化とガイド」という授業では松江を英語で

Castプロフィール



津田 智子さん
[浜田キャンパス]
総合政策学部
総合政策学科 2年
今治北高校出身
(愛媛県今治市)



津森 愛実さん
[松江キャンパス]
短期大学部
総合文化学科 2年
松江北高校出身
(島根県松江市)



飯塚 祐輝さん
[出雲キャンパス]
看護学部
看護学科 4年
三刀屋高校出身
(島根県雲南市)



清原 正義学長
公立大学法人島根県立大学理事長
島根県立大学学長
島根県立大学短期大学部学長

案内するのですが、実際に観光地へ足を運んだり調べたりしてガイドコースをつくっていくので、松江市の観光について多くの知識を得ることができました。1年夏のアメリカへの語学研修も良い経験となりました。



清原学長 小泉八雲のひ孫で本学の教授・小泉凡先生は、ゆかりの地へ学生たちと出向くなどして八雲について教えておられます。松江市にある大学としてこれは財産だと思ってるので、これからも八雲の研究ができることを特色として生かしていきたいです。また、これからはグローバルな社会になっていくので、学生たちには津森さんのようにたくさん国際交流をしてもらいたいですね。

地域課題と向き合う学生

―飯塚さんは来春から看護師として社会人生活をスタート予定ですね。

―専門の異なる3キャンパスの相乗効果を発揮させる手立てや大学の未来像、学生それぞれの将来像についてお聞かせください。

清原学長 3キャンパスの学生同士の交流に力を入れていきたいですね。今後は「しまね地域マイスター認定制度」のように、3キャンパス共通のカリキュラムを多彩に用意していきたいと考えています。島根県立大学へ来てくれている留学生との交流も、キャンパスにこだわらず実施していきたいですね。地域との関わりも、これまで以上に増やしていきたいです。学生が地域へ出て行けば、地域が活性化されて良い方向へ変わっていくはずですよ。

さらに出雲キャンパスでは看護学研究科に、博士後期課程の設置を求める声も上がっています。現職の看護師の方に学んでいただき、現場に戻ったときに知識を共有してスタッフもレベルアップできる、そんな看護人材を育成することが目標です。浜田キャンパスでは、地域住民などから地域課題について学ぶ新学部を設置してほしいと要望が上がっています。県内の高校生で地域課題に取り組んでいる生徒たちに

飯塚さん 現在、出雲キャンパスの看護学部で学んでいます。看護師を目指したのは認知症の曾祖母の在宅介護がきっかけです。介護していた祖母の苦労やストレスは大変なもので、両者が気持ちよく介護と関われるようにならないかと考えていました。看護師を目指す決めた際には、自分を育ててくれたこの土地で看護師として貢献したいと思い、島根県立大学を目指しました。



清原学長 飯塚くんのような看護師には、今後大きな期待が寄せられ

学生交流、企業連携も強化へ

進学してもらうためにも、ぜひ実現させたいです。

重要だと考えていることのひとつが、就職活動時の企業との連携です。中小企業とのマッチングを強化したり、大学と企業が一緒に人づくりをするなどして、学生にとってよりよい就職活動ができるよう支援していきたいです。

飯塚さん 病院への就職が決まっているのですが、先ほど学長がおっしゃった就職時の企業との連携という点で、自分にもできることがあると感じました。看護実習では病院のみなさんにお世話になりましたが、これからは自分が実習などで後輩たちの育成をしていく役割を担っていくのだと気づかされました。



津田さん 将来のことはまだ決めていませんが、あと2年間大学で学べるので無駄なく過ごしたいので

れると思います。全国一の高齢化率の島根県では、地域住民で患者さんをケアする「地域包括ケア」が重要です。その中核を看護師が担っていくと思うので、彼のような学びをしきりた人材の存在は心強いでしょう。島根県西部や隠岐地域で看護師や保健師、助産師が足りていない今、地域に根付く医療人材を育成していくということが本学の役割のひとつだと考えています。



多様化する

地域ニーズに対応

―島根県立大学では来春、松江キャンパスに4年制の「人間文化学部」が誕生。出雲キャンパスの看護学部も「看護栄養学部」に再編されるなど、大きな大学改革が進みます。

清原学長 松江キャンパスの再編では4年制の「人間文化学部」を新設しますが、短期大学部と併せて出

す。人の役に立てるような仕事に就きたいとは考えていて、そういう仕事は人とのコミュニケーションが大切だと思うので、ボランティアやオープンキャンパスに来る高校生たちとの交流などを通して力を蓄えていきたいと考えています。

津森さん 地元での就職が決まっております。今は島根県立大学で学んだことをさらに深め、活かしていきたいという気持ちがあります。文化や習慣の違う外国人観光客が、もっと気軽に島根県へ遊びに来てくれるよう様々な文化や思想を学び、それらを地元の人と共有して島根県の観光振興に寄与したいと思っています。

清原学長 私たちは大学だけでなく、地域もより良くしていく必要



雲松江を活性化する学部になりたいと考えています。保育教育学科は地元の教育を支える人材を、地域文化学科ではインバウンドなどこれから多様化する観光に対応できる人材を育てたいです。

出雲キャンパスの看護学部は、松江キャンパスから移転する健康栄養学科と合わせて「看護栄養学部」となり、医療と食の両面から課題に取り組みることができるようになります。島根県西部や隠岐では医療や福祉に携わる人材が足りていないので、そのような地域の求める人材を育成することが島根県立大学の役割のひとつだと考えています。



があります。地域を活性化させるキーワードとして「よそのもの」「わかもの」「わかもの」というものがありますが、大学も同じですね。「よそのもの」である県外の「わかもの」と、県内の「わかもの」が協力して切磋琢磨し大学全体を良いものにしていき、私のような「わかもの」がそこについて行くというようになればいいな、と思っています。みなさんと一緒に力を合わせて、島根県立大学の発展に努力していく考えです。



活発な議論が交わされた

地域とつながる 世界へひろがる

浜田 キャンパス

HAMADA Campus <http://hamada.u-shimane.ac.jp/>

出雲キャンパスと合同の演習科目開講 地域課題に向き合い、解決のアイデアを生み出す

異なる専門分野の学生が、地域課題について共通のテーマを設けて議論し、実践的な課題解決策を探る演習科目「地域課題総合理解」が、総合政策学部(浜田キャンパス)と看護学部(出雲キャンパス)との合同科目として開講されました。

「**地域課題総合理解**」
「**地域課題総合理解**」
「**地域課題総合理解**」

この科目は、地域の事情に精通し、課題解決に取り組み実践力を付けた学生を大学が独自に認定する「しまね地域マイスター認定制度」の基礎科目です。マイスター課程2年次生の必修科目として総合政策学部では2016年度に、看護学部は17



設定したテーマに基づき、グループワークを実施

年度に開講しました。専門分野の異なる学生が一つの課題を学際的に探求していくことで、広い視野と柔軟な思考力を培うのが狙いです。

「**政策」と「看護」**」
「**政策」と「看護」**」

本年度の演習課題は「島根県における防災・減災を目指した課題とその対策」。出雲キャンパスを会場に2日間の集中講義形式で開講し、マイスター取得を目指す29人の学生が受講しました。総合政策学部の学生は政策立案、看護学部の学生は健康を支えるというそれぞれの視点から現状認識や解決に向けたアイデアを持ち寄り、全員が事前学習のレポートを発表。続いて6グループに分かれ、グループごとに設定したテーマで議論を重ね、最後に成果発表を行いました。

避難所での二次健康被害対策を取り上げたグループは、災害発生から3日間の栄養管理に着目。備蓄食料を高齢者でも食べやすく改良すれば、避難所で体調を崩す高齢者を減らせると予測。さらに、自力での避難が

難しい高齢者の避難訓練などを盛り込んだ住民啓発プランも提案しました。ほかにも物資の備蓄やボランティアの拠点に道の駅を活用する案や、医師や看護職、栄養士といった地域に住む人材の把握など地域コミュニティ単位の災害対応システムの構築を促す案もありました。

総合政策学部の徳竹千春さんは「専門が異なる学生との議論は刺激になった。社会問題の解決のためより良い政策を立案するには、個々の知識だけでなく、お互いに主張を受け入れ、ディスカッションできる力が必要だと感じた」とコメント。指導した総合政策学部の豊田知世講師(環境経済学)は「災害対応のように、多くの地域課題は異なる分野の協働が機能しなくては解決できないケースが多い。今回学んだことをぜひ実社会で生かしてほしい」と期待しています。



議論の成果はパワーポイントを用いて発表

Research Report

研究レポート

「発展途上国の通貨統合」を研究 中東など途上国型の経済構造を軸に分析

経済学(国際金融論) 木村 秀史 講師

国際金融論を専門とする木村秀史講師の研究テーマは「発展途上国の通貨統合」。途上国にとって最適な通貨統合の在り方について、理論構築を試みており、昨年、これまでの研究成果をまとめた著書『発展途上国の通貨統合』を上梓しました。

「学問を通じて金融に関わりたい」

金融に興味を持ったのは大学生の時。小泉郵政改革、メガバンク合併再編、不良債権問題、ペイオフなど目まぐるしく変動する金融情勢に直面し「リアルタイムの社会の動きを学び、分析できるのが面白いと思った」といいます。卒業後、出身地・新潟県の銀行に入り金融の現場に身を置いたものの、「学問を通じて金融に関わりたい」との思いが募り、3年で退職。研究者を志して進学した大学院で、中東産油国の通

貨統合計画を知ったことで、発展途上国の通貨統合論がライフワークになりました。

途上国の通貨統合実現には「先進国とは大きく経済構造の異なる途上国に、EU(欧州連合)におけるユーロ導入の論理を単純に当てはめることはできない」と考えています。

研究の対象とする中東では、サウジアラビア・クウェート・カタール・バーレーンの4カ国が通貨統合を計画。サウジアラビアとカタールの国交断絶など情勢が流動的だとしつつも「中東は元々金融政策の自由度が低く、米国の金利に左右される。通貨統合によって政策の自由度が少しでも高まるのであれば先進国よりも導入のメリットがある」と分析します。

1997年のアジア通貨危機を教訓に浮上した「アジア共通通貨」構想に関しては「歴史認識をめぐる問



ゼミ生と議論を交わす木村講師(中央)

「**最適通貨圏の理論**」の発展を目指して
通貨統合は、経済統合の最終形とも言え、為替リスクが回避できるメリットがある一方、通貨主権を失うため独自の為替政策や金融政策を実施できないデメリットがあります。通貨統合の是非を判定する物差しとしてされるR・マンデル(1999年度ノーベル経済学賞受賞)の「最適通貨圏の理論」であつても「ユーロ導入の理論的根拠として注目を集めたが、まだ不完全」とし、途上国地域でも通用する理論に発展させることを、今後の研究課題に据えています。



総合政策学部 総合政策学科(浜田キャンパス)

木村 秀史 講師

専門分野/国際金融論
國學院大学大学院経済学研究科博士課程後期修了。博士(経済学)。第四銀行(本店・新潟市)に3年間勤務の後、國學院大学大学院に進み、國學院大学兼任講師、埼玉学園大学非常勤講師などを経て2013年4月から現職。日本金融学会、国際経済学会などに所属。



公開講座でベビーマッサージを指導する井上千晶講師(写真右)

助産師として働いた経験や自身の子育て経験から、教育・研究の道を志した井上千晶講師(母性看護学)。原点は「その人らしい、その家族らしい子育てを応援したい」という思い。子育て世代を支援する市民講座を企画しながら、「より良い支援方法」を探る研究に取り組んでいます。

Research Report

研究レポート

母性看護学 井上千晶講師
子育て世代の支援策研究
助産師の現場経験生かす

市民講座で支援を实践、より良い支援方法も探求

10月中旬、出雲キャンパスに生後1〜4カ月の赤ちゃんを抱っこしたお母さんが集まってきました。ベビーマッサージを教わった後、酸化作用のあるハス茶を飲みながら育児相談。参加者の1人は「第1子なので不安は多い。先生に相談できてほっとした」と笑顔を見せました。

これは井上千晶講師らのグループ(リーダー・藤田小矢香講師)が出雲市と共催した全5回の公開講座「出産前後のからだ作り講座」のひとつです。毎回講座の前後に検温やアンケート調査などを実施し、母子のスキンシップや講座内容が心身にどのような変化をもたらすかもチェックします。出産前から産後まで、どの時期にどのような支援が必要なのか、より有効な支援策の根拠



移転新設した図書館

「ひと」を支え「地域」を支える

出雲 キャンパス

IZUMO Campus <http://izumo.u-shimane.ac.jp/>

看護栄養学部 2018年4月新設
看護と健康栄養 連携のカリキュラム

2018年4月、出雲キャンパスでは、現在の4年制の看護学部(看護学科単科)が、「看護学科」(定員80人)と「健康栄養学科」(定員40人)の2学科を擁する「看護栄養学部」に改編されます。両学科の連携による教育・研究体制の強化に大きな期待が高まっています。

チーム医療の実践人材を養成

健康栄養学科の4年制化は、地域住民の健康を担う高い専門性や指導力の育成が狙い。山陰初の管理栄養士養成機関となるほか、食育教育を担う栄養教諭の養成、高齢化社会で必要とされる在宅栄養ケアの専門的、実践的な能力の育成などに力を入れます。

さらに期待されているのが、看護と健康栄養の学科が併存するメリット

トを生かした教育・研究体制の充実です。「島根の地域医療」「チーム医療論」といった両学科の学生が一緒に学ぶ共通科目を開講し、看護師、保健師、栄養士など多職種の連携を重視したカリキュラムを導入します。学生自身が課題を発見し、それについて調べ、仲間と議論して解決策を探す「アクティブラーニング」を積極的に取り入れ、専用の演習室も整備します。

また、地域課題の学習、フィールドワークを通して実地体験を深める科目も強化する方針で、山下一也副学長は「高齢化先進県である島根県では保健・医療・福祉のさまざまなサービスに関わる専門職が連携する『チーム医療』が今後ますます重要になる。4年間を通して多職種への理解を深め、より実践能力の高い人材を育成したい」と話します。

健康寿命の県内格差解消もテーマ

出雲キャンパスでの今後の研究テーマの一つとして注目されるの

が、高齢者の健康問題を中心に栄養管理が重要な要素と考えられる症例への対応。山下副学長は、サルコペニア症候群を例にあげ、適切な栄養摂取や運動をせずにいると年齢を重ねるごとに筋肉量や筋力低下が加速し、自立して暮らせる「健康寿命」に大きく影響する点を指摘します。「県内では健康寿命の地域格差が大きく、栄養管理の状況など地域ごとの課題を掘り下げて研究する意義がある。こうした研究テーマを見つけ、自ら新しい領域に挑戦するという意気込みを持つてほしい」と期待しています。



移転した図書館を含む健康栄養学科新棟

を探るため貴重な研究データを蓄積しています。

子育て中の人を「笑顔にしたい」

勤務助産師としての実践経験や自身の子育て経験などを通じ、何も問題がないにも関わらず子育てに自信が持てず悩む母親、父親を目的の当りたりにしてきました。「もともと自分たちの子育てに自信を持ち、楽しんでもらえるような支援ができないか」との思いを強めたことが、研究の道に進んだ動機です。

現在、メインテーマとする研究は「母子相互作用」。生まれて間もない頃の母子相互作用は授乳中が主で、母が子の様子に気づき、適切に反応することを繰り返すことが母子の愛着や絆の形成、子育てを円滑にすることに繋がります。「これまでの生後早期と1カ月後の母子観察研究で、育児技術に自信のある母親は母子相互作用が促進されることや愛着が高いことが分かってきた。しかし、母子相互作用がうまくいくような視点での子育て支援は、現状では十分でないと感じる」と指摘します。



看護学部 看護学科(出雲キャンパス)

井上千晶 講師

専門分野/母性看護学、臨床看護学

自身の県立看護短期大学助産学専攻科2期生、県内外の病院で約5年間助産師勤務を経て「母性看護学」助手として県立看護短期大学(当時)に専任。2012年4月から現職。日本母性看護学会、日本助産学会、日本看護科学学会などに所属。一般財団法人日本助産評価機構認定アドバンス助産師。

生後1〜3カ月の子どもを持つ母親300名を対象に今年行ったインターネットによる全国調査では、回答者の9割が、授乳しながらスマートフォンなどを利用したことが「ある」と回答しました。「現在の子育てにおける現状を把握し、生活スタイルに合わせた上で、根拠を明確にした必要な支援を行っていくことが大切。これからも観察と調査に基づく根拠のある情報を蓄積し、子育て支援に活用したい」とし、母子の行動観察などの調査を続けながら、臨床現場での根拠のある育児支援へのフィードバックを目指しています。



授乳時の視線計測などの実験設定を調整している様子



開学に向けたキックオフの記念シンポジウム

明日への力を蓄え 自分を創造する

松江 キャンパス

MATSUE Campus <http://matsuec.u-shimane.ac.jp/>

来春「人間文化学部」誕生 短大部改編 開学に向けキックオフ 記念シンポジウム

松江キャンパスに2018年4月、4年制の新学部「人間文化学部」が誕生します。人間文化学部は保育教育学科(定員40人)、地域文化学科(70人)の2学科で構成。短期大学部も改編して、新たに総合文化学科(40人)、保育学科(40人)の2学科構成でスタートし、健康栄養学科は出雲キャンパスへ移転します。

シンポに市民ら150人



新学部・学科の概要を説明する岸本副学長

10月には市民や大学関係者約150人が参加し、開学に向けたキックオフの記念シンポジウムを開催しました。松江キャンパスの岸本強副学長が新しい学部学科の概要を説明後、元島根県立島根女子短期大学学長の藤岡大拙名誉教授が記念講演。学長時代、2度にわたって4年制大学への昇格

を試みたが叶わなかったエピソードを披露し「このたびの実現は感慨無量」と語り、「大きな時代のうねりの中で、文化や子育ての問題は重要な課題。松江キャンパスから、地域課題の解決につながる方策が生み出されることを期待している」と激励しました。

続いて、教員や学生、卒業生ら7人がパネルディスカッションを行いました。学生らは子どもたちに演劇や歌を披露する「ほいくまつり」や、外国人に松江の観光地を紹介する「文化とガイド」など、特色ある活動や授業を報告しました。長野県出身で総合文化学科を卒業し、現在松江市で観光ガイドに携わる橋井友泉さんは、在学中に履修した小泉八雲や古事記の授業、八雲の怪談ゆかりの地をめぐるツアー体験などを紹介。「よそもの」の私でも松江に愛着を持てるようになり、学んだことがガイドの仕事にも直接役立つ」と語りました。保育学科を卒業し地元雲南市の保育所に勤める三次遥香さんは「大学では日々の講義や実習、ほいくまつりを通じて、自分で考えて行動し、掘り起こして



記念講演する藤岡大拙名誉教授

次に生かすということや2年間続けた。職場では一人一人に責任や役割が与えられるが、どんな時も自分なりに乗り越えていく力がついたと思う」と強調。総合文化学科のダスティン・ジョン・キッド講師は「地域に特化した授業が多いのが魅力。県内のどこにしかない文化を、授業にもっと生かしていきたい」と意欲を語りました。

「地域貢献」全国一の大学を目指す

清原正義学長は凝縮した期間で目標を設定して学べる短期大学の良さを挙げ、4年制学部を含めた再編後の県立大学で「これまでの教育を発展させながら、島根の将来を担う人材の育成をより一層進めると強調し、「県立大学にしかできない地域との連携、貢献のあり方を考え、地域貢献で日本一の大学を目指していく」と決意を語りました。

Research Report

研究レポート

解剖学(形態学・発生学) 直良 博之教授 出雲へ移転する健康栄養学科 「食と健康」で地域とつながる研究活動



2018年4月、島根県立大学では短期大学部が再編され、健康栄養学科は4年制の管理栄養士養成施設として出雲キャンパスへ移転します。健康栄養学科のこれまでの研究活動と成果について、直良博之教授(解剖学)にうかがいました。

食と健康、幅広い研究対象

健康栄養学科の研究活動について「基本的な研究テーマは『食と健康』だが、その研究対象はとても幅広いのが特徴」と指摘します。例えば「糖



学生に研究指導をする直良教授(左)

尿病)に関して「糖尿病患者におけるホルモン量と骨粗鬆症との関連を調べる臨床研究が行われている一方で、マウスを用いた研究だが、胎児期の脂質栄養が糖尿病発症に影響するという、とても基礎的な研究もある」と説明します。

「地域」というキーワードで見ても、浜田市などと共同で行われた、市内の高齢者に不足している栄養素を調べた研究もあれば、食品加工学の立場から、特産の西条柿の新たな加工法を開発した研究も行われています。一方で、島根県の伝統的な家庭料理について行ったアンケートや聞き取り調査は、食文化に関する全16巻の書籍の一部としてまとめられました。このほか「スポーツ栄養学」や「食行動学」の分野でもさまざまな研究論文が発表されています。

「研究対象はいろいろだが、それぞれの研究者が、それぞれの専門性、つまり各分野の『学問』を基礎としているため、



卒業研究中の安藤さんと走査型電子顕微鏡で観察する直良教授(右)

まったく分野の異なる研究内容でも面白いディスカッションが可能で、そこで新しい視点や発想、研究テーマが見えてくることも多い」と話します。

学生と共に、広がる共同研究

また「学生が、研究活動の一部に関わることが多いのも健康栄養学科の特徴かもしれません」と説明します。

「私自身が行っている研究でも、大学院生のころに修得した、細胞内小器官、例えば、ミトコンドリアとか小胞体を電子

顕微鏡で立体的に観察するという手法があるのですが、それをセレンというミネラルの取りすぎや不足で生じる異常の観察に使えるということを思いつき、現在、卒業研究中の学生と一緒に観察しています」と紹介します。サプリメントとしても販売されているセレンですが「不足するとミトコンドリアの形にかなりの異常が出てくるのは確認できた。今後は、過剰の場合や、細胞機能への影響という点をはっきりさせる予定。実験結果によつてはセレン摂取量の見直しにつながる可能性もある」と、学生との共同研究成果に期待を寄せています。

さらに出雲キャンパスへの移転に伴い「教員も増え、看護学科の先生方を含めた共同研究がさらに広がることを楽しみにしています」と話しています。



短期大学部 健康栄養学科(松江キャンパス)

直良 博之 教授

専門分野/形態学・発生生物学
山口大学理学部生物学科卒、島根医科大学医学研究科修了。博士(医学)。島根県立島根女子短期大学助手などを経て1995年、島根県立島根女子短期大学家政科・助手として着任。2013年から現職。日本解剖学会、日本先天異常学会に所属

学生活動紹介

do ing

[ドゥーイング]



学外へ飛び出し、躍動する県大生！

地域の子どもたちの健全な成長を育み、見守る活動。看護という専門分野を生かした在住外国人への支援。平和の実現を目指して多くの留学生と交流し、海外で調査活動！。積極的に学外へと活躍の場を広げる学生に、活動に至るきっかけや活動内容について聞きました。



【浜田】BBSサークル



【出雲】ポルトガル語医療サポート講座



【松江】TYDスクール

兄や姉のような立場で地域の子どもたちに寄り添います。

浜田キャンパスBBSサークル部長 鈴木 翔太さん（総合政策学部3年）



戦後、京都での学生運動から始まり、今年で70周年のBBS（ビッグ・ブラザーズ・アンド・シスターズ・ムーブメント）は、兄姉のような立場で子どもたちと共に遊び、学び、時に相談相手になって子どもたちの健全な成長を支え、犯罪のない明るい社会の実現を目指すボランティア運動です。県立大BBSサークル（会員58人）の入会条件は「子ども好きであること」のみ。2002年の発足以

来、子どもたちの健全な育成を支援する活動を続けています。

一般的なBBSの活動の中心は非行少年等の更生保護ですが、私たちの活動は非行防止活動が主で、公民館と連携して行う小学生の通学合宿など、地域ぐるみの取り組みが充実しています。活動の柱のひとつが毎月第3土曜日に開催する「やんちゃプレイス」です。ボールや鬼ごっこなど体を使っ



地域の子どもたちと交流するBBSサークルのメンバー

た遊びに、毎回数十人が参加してくれるほど地域に定着してきました。今後も年齢の近さを生かし、先生でも友だちでもない、縦でも横でもない「ナナメ」のつながりを大切に子どもたちと向き合っていきます。



月1回開催する「やんちゃプレイス」では体を使った遊びで交流

出雲市在住ブラジル人向け医療サポート講座を企画・開催しました。

出雲キャンパス 廣澤 有香さん（看護学部4年）



ポルトガル語で受講できる女性向け医療サポート講座（定員10名）全3回（2017年5〜7月）を企画・開催しました。私は、米留學時に体調を崩し、医療機関の受診に不安になった経験があります。在住外国人の皆さんが最も欲しい情報が医療に関するのだと県の調査で知り、彼らが日本で安心して生活する支援がしたいと思いました。出雲市の在住外国人数は、県内市町村最多の約3000人で、今回は、うち約7割を占めるブラジル人、中でも出産や育児を担う女性を中心とすることにしました。

国際交流

サークル等の学生有志や通訳の方にもご協力頂き、母子保健の紹介



受講者に119番通報を実践指導する廣澤さん（右から2番目）ら

に加え、特に不安の声が多い医療用語については、病院に持参できるように血液型やアレルギーの有無、既往症などを両語併記した緊急チェックリストの作成を指導し、好評でした。一方で、在留資格による保険加入の制約や医療習慣の違いなどの課題もみえました。今回は、男性向けや別の言語での開催など、地域の支援ニーズに定める企画を実現したいと思っています。



Q&A形式で日本の医療や保険制度について意見交換

韓国・台湾を現地調査し日韓関係改善に向けてのヒントを探ります。

松江キャンパスTYDスクール代表 田川 志織さん（総合文化学科2年）



「戦争は良くない」と言われつつ、世界中で戦争や紛争がなくならないのはなぜか。以前からの疑問を解き明かすため、まず戦争を「知ろう」と、同級生と2人で第2次世界大戦についての勉強会を企画し、韓国・中国・インドネシア・米国の留学生と共に各国の教科書を比較、意見交換しました。そこで感じたのは日本の視点だけでなく、各国の人の声を聞き、考えが違っても批判するだけ

ではなく、理解し、受け入れることの大切さです。その上で戦争をなくし、世界が平和になるには何をすればいいかを考え、行動していこうと今春サークルを設立しました。現在のメンバーは8人。今年度は大学の海外活動への資金援助制度「グローバルドリームハント」を利用し、日韓関係改善をテーマに活動しています。9月には台湾を訪れ、街頭調査を行いました。約100人中「日本が嫌い」との回答は数人で、会話からも親日の印象を受けました。12月には韓国で調査を行います。両国の対日感情を比較し、日韓関係改善に向けてのヒントを探りたいと考えています。



県立大学協定校の台中科技大学の学生と交流するメンバー

島根県立大学未来ゆめ基金へのご協力に心よりお礼申し上げます

「島根県立大学未来ゆめ基金」につきまして、平成28年11月1日から平成29年10月31日までの間に、下記のとおり個人99名、法人・団体等18名の皆様から総額1,875,120円のご寄附をいただきました。皆様のご協力に厚くお礼申し上げます。ご寄附をいただきました皆様に感謝し、ここにご芳名を掲載させていただきます。

【個人からのご寄附】

赤木 保江	佐伯 勝文	野々村 三千子
朝比奈 里菜	佐伯 晴子	橋本 英治
安部 文子	佐藤 千代子	原 恭子
安部 康成	澤邊 浩国	萬代 尚良
家本 賢	柴田 広大	平下 洋子
石倉 一憲	清水 つゆ	山下 隆司
石崎 優子	杉 弘 臣	廣山 久美子
井谷 久子	曾 田 広	堀江 英智
今地 千代枝	高瀬 泰子	牧 智憲
石見 治彦	高松 哲也	松村 一雄
江川 慎司	鶴田 悠司	松宮 川 勝
榎 幸浩	徳富 れい子	森 田 本 裕
大石 宗男	中尾 貴弘	森 田 本 裕
岡田 喜朗	永瀬 一彦	森 田 本 裕
小川 義弘	永田 真司	安 井 本 裕
影山 尚子	永田 美恵子	安 井 本 裕
加納 恵美子	長妻 正昭	安 井 本 裕
来海 公子	西根 敏明	安 井 本 裕
木村 イサ子	西山 啓子	安 井 本 裕
木村 正典		
桑谷 郁		

【法人・団体等からのご寄附】

大石税理士事務所	浜田ビルメンテナンス株式会社
故宇野重昭先生を偲ぶ会実行委員会	有限会社友田大洋堂
島根県体育用品株式会社	有限会社ナイチンゲール
島根県民共済生活協同組合	有限会社ナガサコ印刷
松栄印刷株式会社	有限会社丸嘉土建
スタジオ・フォトワークス	有限会社八重垣写真館
浜崎タイプ販売株式会社	和幸電通株式会社

※五十音順、敬称略
 ※ご寄附をいただいた皆様の中で、御芳名の公開を希望されない方につきましては掲載していません。
 ※申込書は本学ホームページにも掲載しておりますが、郵送もいたしますのでお問い合わせください。

事務局財務課 TEL:0855-24-2218
 申込パンフレット

PRESENT

ご意見・ご感想をいただいた皆様の中から抽選で、本学出雲キャンパス共同開発商品のえごま醤油、えごまあげ野焼(川本6次産業化ネットワーク)をセットで5名様にプレゼントいたします。ご意見は、本誌差し込みハガキ、または、メールにてお寄せください。



※当選者のお知らせは発送をもってかえさせていただきます。
 ※応募締切/平成30年2月13日(火)必着

■メールでの投稿はこちら
 島根県立大学 広報誌オロリン事務局
 E-mail:kikaku@u-shimane.ac.jp



浜田 キャンパス

総合政策学部 総合政策学科
 (社会経済プログラム)2013年3月卒
佃 秀幸さん(26歳)

広島県三次市出身。2013年4月、株式会社しちだ・教育研究所(江津市)に入社。教務部を経て、14年2月から総務部で主に採用業務を担当。

大学生活を通じて軽音楽部の活動に打ち込み「自分は人と関わることが好きだ」と感じた。そして「周囲を考えを伝え、共感・協力してもらおうことが真のコミュニケーション力だ」と学んだという。「多くの人と関われる仕事」を志望し、幼児教育や食育、能力開発などを全国展開するしちだ・教育研究所(江津市)に入社した。現在担当する採用業務では「この会社に入りた」と思ってもらえるような会社の魅力を的確に伝える必要がある。そこに大学で培ったコミュニケーション力が活かしている」と語る。大学の後輩と交流を続け、地域の活動にも参加しながら「自社だけでなく、地域の魅力発信にも貢献したい」と考えている。



出雲 キャンパス

看護学部看護学科
 2016年3月卒

山口 千恵子さん(23歳)

隠岐の島町出身。2016年4月から故郷の隠岐広域連立立隠岐病院に勤務。

幼い頃からの看護師になる夢を叶え、昨春、故郷の隠岐病院で働き始めた。就職先の選択に迷ったが、4年次の隠岐での実習を経て、住まい・医療・介護・予防生活支援を一体的に行う地域包括ケアシステムの重要性を「地域とのつながりを大切にした看護の仕事」を隠岐で実践したい」と決意した。最期を故郷で過ごしたいと帰島した患者を担当したとき「退院後の生活も含め、患者さんの何気ない言葉や変化に目を配り、どういう看護が必要かを常に考えて努力したい」と感じたという。目の前の課題を一つ一つやり遂げることで経験を積み「その人全体を見る」とができる「看護師」を目指している。

松江 キャンパス



搭乗客に笑顔で話しかける山脇さん(右奥)＝出雲市斐川町の出雲縁結び空港で

米留学で磨いた英語力を生かしたいと、出雲縁結び空港で日本航空(JAL)のグラウンドスタッフとして働き始めて4年目。出雲縁結び空港は国際定期便は未就航だが「個人旅行を中心に、外国人観光客は着実に増加しています。今後さらに成長が見込まれる島根県のインバウンド推進や、観光振興にも貢献したい」と先を見据える。グラウンドスタッフの仕事はカウンターでの搭乗手続きや発券、荷物の預かり、搭乗ゲートでの案内業務など幅広く、早朝や夜間勤務も多いハードワーク。空港内を駆け回る日々だが「最初はご意見を頂いていたお客様に、自分の接客を通して、最後には笑



総合文化学科 英語文化系 2013年3月卒

山脇 菜摘さん(25歳)

鳥取県倉吉市出身。本学短期大学部を卒業後、協力協定を結ぶ米国・セントラルワシントン大学に1年間留学。2014年10月、日本航空(JAL)から出雲縁結び空港の地上業務を受託している一畑トラベルサービスに入社した。

「最初はご意見を頂いていたお客様に、自分の接客を通して、最後には笑顔で話しかける山脇さん(右奥)＝出雲市斐川町の出雲縁結び空港で」

顔で「ありがとう」「また来るね」などのお言葉を頂いたときは何より嬉しい」とやりがいを感じる。元々スポーツインストラクター志望で、本場米国での資格取得を目指し、充実した留学制度がある本学を進学先に選んだ。転機は、大学の授業で参加した外国人向け日本語教室。「人と人、国と国をつなぎ、懸け橋になれるような仕事がしたい」と思うようになり、米国・セントラルワシントン大学への留学を経てその思いはさらに強くなったという。今、縁結びの名を戴く空港で、島根と来訪者のご縁を結ぶ役割を担っている。「お客様が最初に接するのがグラウンドスタッフ。島根県のイメージを左右する重要な役割だと自覚し、スキルアップに努めたい」と意気込みを話す。



夢を叶えて、キャンパスから世界に、地域に。 グローバルに活躍する 県大OB・OGたち